

## 自分を大切に思えること

毎日のように悲しい事件が飛び交っています。「口論の末、同級生を刺す」、「父親が娘を…」これは、先日報道されたばかりの事件。川崎や前事務次官の事件など、現代の日本の家庭や教育の縮図を見ているようで、本当に胸が痛みます。他人を殺める、我が子を殺める、そして自分自身を…。あってはならない事です。0歳から6歳の子ども達を預かる私達の責任の重さを改めて感じています。

このような事件が起こる度に、幼少期の育ちが問いただされます。親子関係や家庭や学校でのこと。親や特定の大人との『愛着関係』はどうだったのかなど？多様な家庭があり、生き立ちがあるでしょうが…。事件を起こす前に、踏みとどまることは、出来なかったのでしょうか？

人が人を育てる事の難しさを考えさせられます。しかし、子育ての楽しさを体験できるのもまた、人です。『自分は、これでいいんだ…』、『愛されている』と言う、前向きな感情を持てること、自分を肯定できることについて、幾度となくお便りに載せてきました。『自分は、これでいいんだ…』と思える気持ちは、『愛着』によって備わります。「大好きだよ」、「大丈夫あなたの見方だよ」、「いつも応援してるよ」などのプラスの言葉で、『信頼と自信』を築いていきましょう。

園では、保育者との愛着や信頼を図り、遊びの成功体験を通して、自信に繋げていきたいと考えます。

## 木を植えるということ…Ⅱ

京都には、「借景」と言う造園の技法があるそうです。神社、仏閣や個人などの庭とそこから見える遠方の山々や川などの景色を含めて、その庭の美しさとする考え方だそうです。その為に、庭木の剪定や遠方に見える木々までもバランスを取る為に配置や剪定を細やかに職人さんがするとの事です。その作業は、松葉一本一本を丁寧に素手で取るなど、気の遠くなるような作業。それが何十年、何百年後の庭や景色を想定しての庭造りだそうです。今を生きる人が、自分の死後より遙か先の時代に、その景色を残し、受け継いでいく遺産。素敵な事だなーとしみじみ思います。

ツリーハウスを制覇した子どもたちが、『霧島が見える！』『山の上に雲があるよ！』などと得意げに、下にいる私に教えてくれます。そこから見える、山紅葉越しの霧島を、子ども達の目に焼き付けて欲しいなと願っています。おおむたこども園の庭からの『借景』は、あの霧島連山です。故郷の風景を大事にしてくれる、思い出してくれる子ども達を育てることも園庭をつくる私達の思いです。

## 木を植えるということ…Ⅲ

ままごとハウスの前の小さなピワの木に、木を植えて初めて実がなりました。鳥や虫につつかれて、食べられそうな実は、少ししかありませんでした。『採って食べていい？』とばななさん。小さなピワのみですが、『甘い…』『味がしない…』『固い…』、いろいろな言葉が出ていました。

キウイフルーツも植えてから、3年。やっと3個の可愛らしい実が生りました。植えても植えても、子ども達に葉をむしられ、枝を折られ、何本の木を枯らしたことでしょう？

子ども達の身近に、木が無かったからついつい、いたずらに手を出してしまったのでしょう。

子ども達の手の届く所に、木がある、花がある、野菜が植えてある環境は、とても大事なことです。だから、そっと、その生長を楽しみに待つことのできる子どもになって欲しくて、また、木を植えます。